

偉大な人 大上宇市 勉強会

神戸新聞の記事から

平成25年6月、神戸新聞に「コヤスノキ発見の博物学者大上宇市の研究成果を本格調査」という記事が掲載された。たつの市教育委員会主催で平成26年度大上宇市顕彰事業の勉強会が発足した。大上宇市の行動録調査資料作成や講習会などの勉強会が30回に及んだ。

平成27年12月から平成28年2月までの特別展「大上宇市のあしあと」開催をもって勉強会は一区切りとした。その後、平成28年7月、有志5人で「大上宇市勉強会」を再結成して活動を続けている。

大上宇市の生き方に魅せられて

会員の多くが、宇市の生き方、「いつか必ず役に立つ」という理念に惹きつけられて勉強会に力を注ぎ、そのことを生きがいにしてしている。勉強会の代表は木南哲也氏。彼は宇市が生まれた村・新宮町篠首の住人。その中に上郡町の水谷和芳さんと竹一生子さんが加わっている。二人は植物学者牧野富太郎の記念館（高知）を訪ねるほどの植物研究大好きの人。勉強会は高見恵子さん、上野喜章さんを含む5

名。すべてに手を挙げられないから自分の興味のある分野で活動している。一生活動しても宇市の研究の一部しか掘り起こせないほど到達先は遥か彼方にある。勉強会の趣旨は「郷土の博物学者大上宇市にまなび、光をあてる」。博物学なので何を調べても、自分たちとかわりができる。会員は生涯学習ができるよろこびを感じている。

勉強会の成果はいろいろの機会を捉えて、展示や発表したい、という。

今年1月、西播磨文化会館の「生活創造活動グループ作品展」で勉強会の活動成果を展示した。

一方、地元の香島小学校では毎年、3年生が大上宇市のことを学ぶ活動をしている。素晴らしいことだと思う。

『大上宇市という人』

「コヤスノキ」は、西播磨と岡山県東部にしかない、めずら

しい植物。この植物は、大上宇市によって1900年（明治33年）に発見。世界の植物学会に発表され、たいへん有名になった。

このコヤスノキを発見した大上宇市は、1865年に香島村篠首の貧しい農家



和名：セトウチホトトギス

学名：Tricyrtis setouchiensis Hr.Takahashi

植物：ユリ目、ユリ科、ホトトギス属の多年草

大上宇市関連資料

参考植物図説第一巻 312-82

撮影時期：2015.7.25 たつの市新宮町篠首

撮影者：木南哲也

一例・・・大上宇市の研究の跡を追う

大上宇市の理念
「いつか必ず役に立つ」

に生まれ、明治時代の小学校に入学した。しかし、生活苦で、2年余りの通学で、13歳のときに学校をやめなければならなかった。

その後は独学の研究や実学で郷土の文化やくらしの向上のため生涯を捧げた。

【取材・文責：山本健一】



勉強会のメンバー